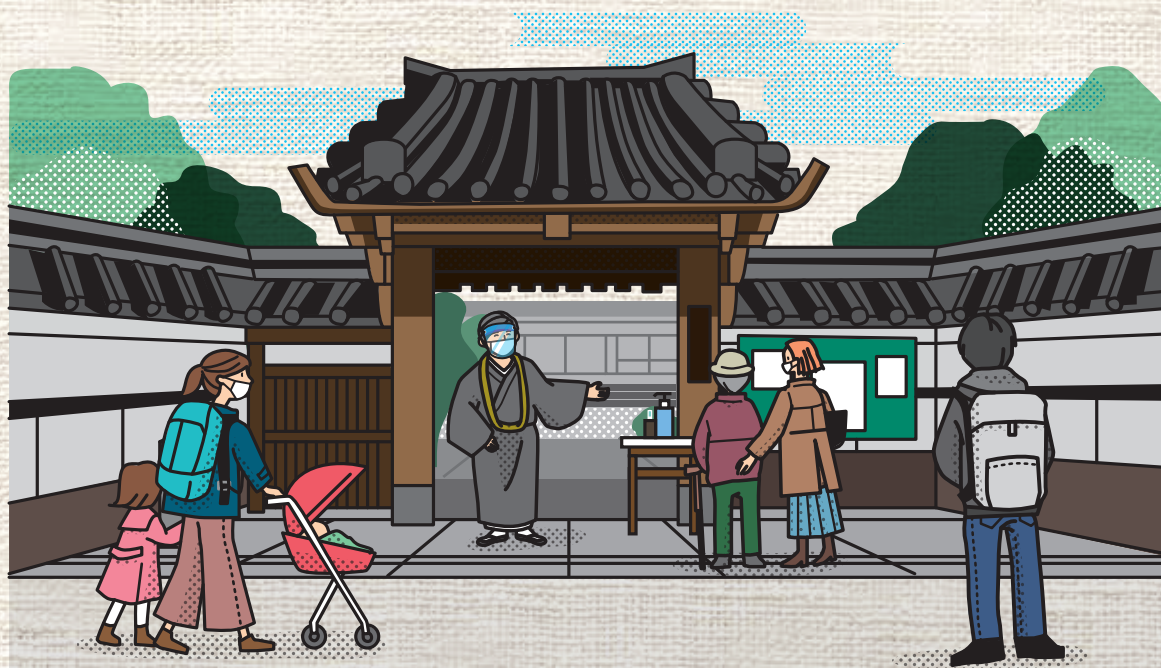


コロナ禍における お寺への避難について

新型コロナウイルス感染症が懸念される中で災害が発生し(または災害の危険が高まり)、

ご門徒さんや地域の方々がお寺へ避難に来られた場合の留意点をまとめました。

『ご門徒さんと考える〈寺院〉のための災害対策ハンドブック』と一緒にご活用ください。



**コロナ禍における災害時に、お寺を避難場所として開放する際には、
寺族及びスタッフの健康状態を十分に確認した上で受け入れを行ってください。**

最も重要なことは、「避難場所にウイルスを持ち込まない・感染を拡大させない」

そのために必要なことは、「避難者への事前の健康状態のチェック」

山門や向拝などに仮の受付などを設け、前後1m程度の間隔を開けて並んでいただき、
順次、避難されてきた方々の健康チェックを行います。

実施の際は、マスクとフェイスシールドを着用してください。

- ◎アルコール消毒
- ◎避難者のマスク着用の確認(なければ差し上げるなどしてください)
- ◎検温(非接触型体温計が望ましい。接触型の場合は使用のたびにアルコール消毒)
- ◎健康状態のチェック(※中面参照)

健康状態のチェック

感染確認・健康観察中の人

- ①新型コロナウイルスの感染が確認されていて自宅療養中でしたか？
- ②新型コロナウイルスの感染が確認されている人の濃厚接触者で、現在、健康観察中でしたか？

➡ 基本的にこれらに該当する方は、保健所等が指定する場所へ移動していただくことになります。

重要な感染症状(この1~2週間以内に始まった症状について)

- ③発熱はありますか。または数日以内にありましたか？
(37.5℃以上が目安)
- ④ひどい咳はありますか？
- ⑤下痢をしていますか？(1日複数回)
- ⑥においや味を感じにくいですか？



➡ これらに該当する方は、可能な限り、庫裏の別室など、お寺が指定する専用の部屋に案内し(トイレも一般の方とは別)、一時、休養いただきます。複数の方が該当された場合は、同室でも1m以上(できれば2m)間隔を空けてください。また、これらの症状がある方が避難されてきた旨を、市区町村の保健センターや保健福祉部局、または保健所などに連絡し、指示を仰いでください。基本的には、有症状者等用の避難所に移動いただくことになります。

これらの対応は、「ウイルスを持ち込まない・感染を拡大させない」ための措置であり、お寺としてできる限界とも言えます。一方で、感染者や濃厚接触者、症状のある方などの排除、偏見や差別があってはなりません。どんな状況下であれ、対処に最善を尽くしましょう。



健康状態のチェックに該当しない方は 「本堂などの避難スペース」へ誘導

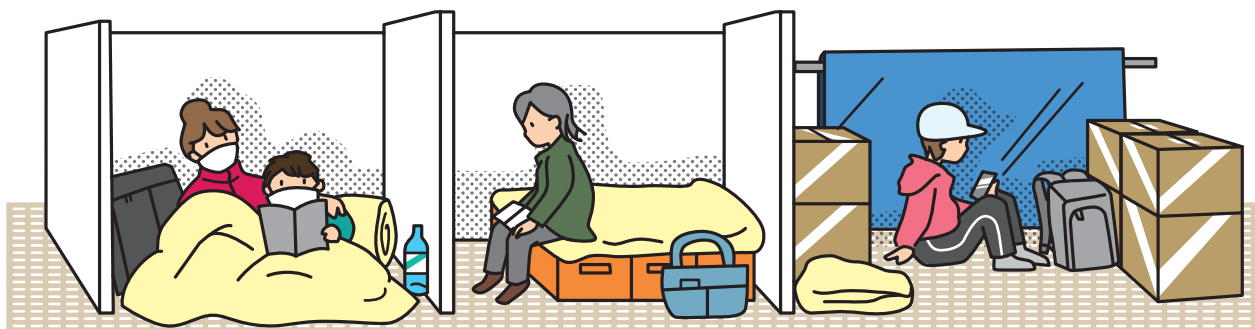
どこにいても一人ひとりが守ること

- 3密(密閉・密集・密接)を避け、互いの間隔を1m以上(できれば2m)空けましょう。
- 汚れた手で、無意識に目・鼻・口を触らないようにしましょう。
- こまめに手洗い・アルコール消毒をしましょう(断水の場合は、ウェットティッシュやペットボトルの飲料水を含ませたティッシュで拭くのも効果的です)。
- 常にマスクを着用し、咳エチケットを守りましょう。
- 食器や洗面用具、タオルを他の人と共用しないようにしましょう。
- 身の回りの整理整頓、掃除に努めて、清潔を保ちましょう。
- 心身の健康の維持に努めましょう。



居住スペースの配置

- 家族単位を基本とし、互いの間隔を1m以上(できれば2m)空けましょう。
- 生活の質を維持するために、一人当たりのスペースは、なるべく2m×2m(4㎡)程度確保できるようにしましょう。
- 飛沫感染予防の観点から、家族単位ごとにパーティション等で囲うことが理想的です。パーティションがない場合でも、ブルーシートや段ボール等で囲うなどしても効果的です。高さは、少なくとも、座った姿勢で口元より上の高さとなるようにしましょう。
- お年寄りや妊婦さん、身体の不自由な方には、段ボールベッドがあれば、寝起きがかなり楽になります(2ℓのペットボトル6本入り等の空き箱やビールケースを並べて、紐で縛れば、簡易的なベッドになります)。



衛生環境

- 室内の換気が重要なので、「常時、窓をいくらか開けておく」または「30分に1回・数分程度、時間を決めて窓を開ける」などしましょう。
- 炊事場、授乳・おもむつ交換スペースは、基本的にアルコールか次亜塩素酸ナトリウム（ハイターなど）で使用のたびに清掃しましょう。
- トイレは、次亜塩素酸ナトリウムで、できるだけ頻繁に掃除をしましょう。
- 人々がよく触る場所（ドアノブ、電気スイッチ、テーブル、洗面台、蛇口など）を定期的にアルコールか次亜塩素酸ナトリウムで拭きましょう。
- 使用済みのマスクや鼻水、痰などを拭いたティッシュなどは感染源になりやすいので、各自専用の小さいゴミ袋を持ってもらい、共用のゴミ箱に入れる前に口を縛って捨ててもらいましょう。また、ゴミ箱から溢れないよう回収し、居住スペース外に集積しておきましょう。
- 心身の健康を保ち、安心感や協力的な雰囲気高めるためには、交流スペースを作ることが効果的です。可能な範囲で気軽に集って、お茶のみなどができるスペースの確保に努めましょう。（手指消毒と会話時のマスク着用を徹底し、対面にならない座席配置になるよう工夫しましょう）



その他

- 避難された方々の中で動ける方には、トイレや部屋の掃除、調理・配膳、換気の声かけ、ゴミ捨て、物資整理など、できる範囲で積極的に避難所運営に協力いただきましょう。
- 避難の際は健康であった方に、重篤な感染症状が見られた場合は、庫裏の別室などに移動いただき、市区町村の保健センターや保健福祉部局、または保健所などに連絡し、指示を仰いでください。
- お寺が指定避難所になっている場合はもとより、コロナ禍で分散避難が推奨されている中、地域等から避難所としての使用を期待されていることも考えられます。その場合は、事前に市区町村と協議し、連絡体制を確立するなどの方策をお勧めいたします。

※参考資料／認定NPO 法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
避難生活改善に関する専門委員会「新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック」
<http://jvoad.jp/wp-content/uploads/2020/06/5a06198f7ed43dc4d5d3d57f86dc6032.pdf>
どなたでも無償でダウンロードいただけますので、ご活用ください。

発行日：2020年12月

発行：真宗大谷派(東本願寺)宗務所組織部 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る

編集：真宗大谷派ボランティア委員会

協力：認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード